

専務理事就任にあたって

一般社団法人日本オーディオ協会

専務理事 末永 信一

概要

専務理事就任のご挨拶とビジョンについて、また今年度の事業計画の一部を紹介いたします。

ABSTRACT

Greetings from the new Executive Director Shin-ichi Suenaga, and introducing the essence of the JAS business plan for FY2020.

この度、専務理事に就任いたしました末永です。これから協会運営ならびに業界貢献に向けて、尽力してまいりますので、ご高誼ご支援のほど、よろしく申し上げます。

就任して一か月、理事の皆さんや協会に関わりの深い方々とお話をしたり、多くの会議に参加したりしていますが、どれもこれも真面目な話が多く、もっと音楽談義をしたり呑気な時間がたくさんあるのかと思っていましたが、そう世の中甘いものではなかったようですねえ（笑）

昨年、小川会長から専務理事のオファーをいただき、少しだけ考えさせていただいてお受けすることにしたのですが、その際に「日本オーディオ協会を、未来を語り合う場にしていきたい」という希望を述べさせていただきました。日本オーディオ協会を創設された井深さんは、どういふ思いで業界仲間を募られたのだろうか？私の勝手な想像ではありますが、井深さんは当時の仲間の方々と未来を語り合いたかったのではないだろうかと思ったからです。私もせっかく協会に関わるのなら、皆さんと明るく未来を語り合いたい。会長からすぐに「それで行きましょう！」という反応をいただき、こんなに反応のいい方なら楽しいお仕事ができるかもしれないといううれしく思いました。

ところで、私はプロ野球が好きなので、そんな例えをしていますが、足元を見ますと、正直な話、万年Bクラスのチームを率いることとなった監督のようなものです。近年ハイレゾで業界を盛り上げて、頑張ってきたものの、協会の経営状態は健全とは言えず、会員の皆さんからは先細りだというお話しか聞こえてきません。まして、コロナウイルスの騒ぎまで起きてしまい、多くの皆さんが楽しみにされていた OTOTEN を中止。学生の制作する音楽録音作品コンテストも中止にしました。試聴会もこの状況下では開催できません。踏んだり蹴つたりの毎日です。

でも、最近ニューノーマルという言葉が聞こえていますが、これからいろんな事が変わるだろうと皆さんがおっしゃっている様に、こういう時だからこそ新しさが求められていると思います。プロ野球の歴史においても、知恵を絞って面白い野球を見せてくれた監督、感動を与えてくれた

監督など、いっぱいいらっしやったわけで、私は B クラスのような現状だからといって、そんなに悲観的な気持ちではありません。

2020 年度の事業計画を立案させていただきましたが、やるべきことを分かりやすく整理し、更に 2 つの新規な取り組みを入れさせていただきました。ひとつは「新技術対応タスクフォース」です。ここ数年に渡って協会はハイレゾに注力して参りましたが、音楽の楽しみ方はハイレゾだけではありません。ハイレゾに続く今後の潮流になるであろう技術を先取りしながら、その時代になった時に何が起こるのかを見据え、若い世代のエンジニアが活躍できる舞台の準備を検討したいと考えています。

もうひとつは「新たな活動検討タスクフォース」です。これまでも協会には若い人たちにに向けて・・・という掛け声はありました。が、なかなか根付くような話は少なかったように思います。それは、私も含めた大人たちが勝手なペルソナを当てはめてしまい、的外れなアプローチをしてきたからではないかと考えています。今期は目的に特化したタスクフォースを立ち上げて、分析、仮説、実験なども含めてどういう活動をすることが、未来につながる日本オーディオ協会にとっての新たな活動になるのかを検討していこうと準備しています。



総会で 2020 年度事業計画を説明中

JAS ジャーナルも少しスタイルを変えていきます。今や情報の窓となっているデバイスは主にスマートフォンであり、これからはパソコンも含めた様々なデバイスで読みやすくなるように対応を進めます。また、これを機に、皆さんにとって更に興味が沸く、そして楽しい読み物にしていけるように編集委員たちと話し合っております。こういうところにも、未来を語り合う場にしていく！というビジョンが広がりつつあり、きっと見ていただいている皆様方にもその変化を楽しんでいただけるものと考えております。

私が好きだったプロ野球の監督の一人に、仰木彬監督という名前が上がります。イチローを育てたことでも有名な方ですが、イチローの時代より少し前に、近鉄バッファローズの監督をされた時期があります。私が社会人になって何年目か、なかなか仕事に芽が出ず、自信が持てない生活をしていた頃に、仰木監督率いる前年度最下位だった近鉄バッファローズの戦いぶりに勇気もらったことを、昨日のこのように覚えています。130 試合目の最後の試合にして、あと1勝届かずに優勝を逃したというロッテとのダブルヘッダーは伝説になりました。特に近鉄バッファローズのファンでもなかったのですが、ここで味わった感動は私のその後の人生を支えてくれた気がします。

感動をもたらす監督は、必ず話題になるヒーローを生み出しています。私の場合、そんな話題作りになるのは、新しい技術を啓発したり、新しい活動の創出をしたりという未来を語り合う場作りになります。それがみんなを笑顔にし、若い人たちのファン層を獲得していく、そういう広がりにつながるように会員の皆様ならびに事務局のメンバーと手を携えて、頑張っていきたいと思っています。

これからの日本オーディオ協会に、期待して下さい。

私の音楽愛やオーディオ話については またの機会に・・・

2020年7月吉日

執筆者プロフィール

末永 信一（すえなが しんいち）

1960年 福岡市生まれ

2019年9月 ソニー株式会社 退社

2020年1月 日本オーディオ協会 職員に

2020年6月 日本オーディオ協会 専務理事就任

ハイレゾWG 主査、展示会実行委員会委員長代理など歴任



小川理子会長とソーシャルディスタンスで記念撮影